

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 郡上特別支援学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和6年10月30日(水) 10:00~12:10
- 3 開催場所 郡上特別支援学校 大和校舎体育館
開催にあたり、委員と中学部生徒とでチームを組み、ボッチャ体験を行った。
- 4 参加者

会 長	板倉 寿明	愛知淑徳大学講師
副 会 長	水野 正文	郡上大和総合開発株式会社代表取締役社長
委 員	小澤 久美子	卒業生保護者代表 (欠席)
	石田 紀美江	郡上大和総合開発株式会社人事管理部長
	池戸 節子	郡上市社会福祉協議会相談支援専門員
	野田 美鈴	社会福祉法人ぶなの木福祉会理事長
	増田 雅幸	郡上市大和町栗巣地域住民
	山田 泰子	郡上市八幡町那比地域住民
	澤 奈央也	PTA会長
オブザーバー	森藤 文男	郡上市議会議員 (欠席)
学 校 側	守屋 朋伸	校長
	井原 誠	副校長
	牧野 康弘	事務部長
	瀧下 直子	教頭
	長井 奈月	小学部兼中学部主事
	金田 麻巳子	高等部主事 (欠席)
	深澤 文貴	教務部長(教務主任)
	鷺見 智世	健康教育部長(保健主事)
	尾形 奈美	生徒指導副部長
	島田 晃宏	進路指導部長(進路指導主事)
	石原 貴子	地域連携部長(特別支援教育コーディネーター)
	福田 はるか	研修主事

5 会議の概要(協議事項)

(1) 令和6年度前期の学校運営状況、地域活動の報告について

意見1:働き方改革が進むことにより、職員が余裕をもって児童生徒の対応ができる。

意見2:お金の使い方について教育する必要がある。社会人になってから、給料や障害者年金の使い方に課題がある方が散見され、就学期における更なる教育が必要である。

意見3:社会人になった後の親子関係に課題を感じる。本人は自立しようとするが、親の影響力が大きい家庭もある。子どもの自立に向けた親子関係を早期に構築しておくことよい。

意見4:学部を超えて交流したり、学校外で体験から学ぶ活動をしたりすることは意義深い。

意見5:生徒がボッチャの作戦を考えて説明してくれた。ボッチャを通して生徒と触れ合うことができた。

- 意見6：社会に出た後、自ら課題を乗り越えていける力を学校で身に付けてほしい。
- 意見7：社会人になってお金の使途が分からない方がいる。使い過ぎる方もあれば、使い方が分からず親を頼る方もいる。学校と事業所が連携して金融教育をできるとよい。
- 意見8：幼少期に支援した児童生徒が心も体も成長し、元気に学んでいる姿が見られた。
- 意見9：米作り活動では、子どもたちが生き生きと楽しんでいた。収穫した米を精米して給食が無い日に食す活動も企画されており、食育につながってよい。
- 意見10：地域交流会では子どもたちが考案したゲームがよかった。今後も続けてほしい。
- 意見11：那比太鼓演奏で高等部生徒が生き生きと活動していた。地域発表の機会があれば地域住民として集客等の協力をしたい。
- 意見12：県主催の会議に出席し、当校の一校舎体制について保護者として強い思いを伝えた。一校舎体制に向け、今後のスケジュールを示せるようお願いをしたい。
- 意見13：那比校舎の体育館は郡上市所有の施設で現在クーラーがない。教育活動を考えるとクーラーを設置してほしい。郡上市への設置要望書を提出していきたい。
- 意見14：高等部生徒が考案したメニューを店舗で提供し、その売り上げで可動式クーラーを購入して那比校舎に寄付することもできる。
- 意見15：小中学部の居住地校交流は大変よい取組だが、高等部と高校の交流では生徒間に心の距離感がある。将来、社会に出て障がい者と関わりながら共生していくのだから、単発的な交流ではなく、高校卒業後も継続して交流できる機会を設け、地域に暮らす障がい者の特性を知ってほしい。
- 意見16：災害時の対応への取組は市町村によって差がある。障がい者の災害時個別避難計画は基本的に自治会が作成することになっているが、児童生徒の特性をよく知る学校も作成に協力してもらいたい。
- 意見17：当校は地元企業からの理解と協力があり、大変ありがたい。Gujo Smile サポートーズの更新、在り方の見直しを図り、協力企業を増やしてほしい。
- 意見18：PTA活動に父親の参加が少ない。参加する家族を増やせるような工夫が必要である。
- 意見19：教員が転勤した後も就労支援ができるシステムの構築を希望したい。
- 意見20：卒業後も社会とのつながりをもち続けられるよう、卒業生同士が交流できるサークル活動やOB会があるとよい。
- 意見21：児童生徒との交流を通して、社員は社会貢献の喜びを体感し、障がい者への理解が深まった。地域交流は双方向の理解につながる。

(2) 学校評価アンケート結果と取組について

- 意見1：評価が高くなることも大切だが、批判的な意見こそが大切である。そのような意見に対して丁寧な対応を重ねてほしい。
- 意見2：評価が低い項目に注目し、大切なポイントを見出してほしい。

(3) 中学部の作業製品と高等部の新作業製品の価格設定について

- 意見1：中学部作業製品は利益が出てはいけない活動である理由は理解したが、生徒が何かしらの形で達成感を得られる活動となるとよい。
- 意見2：中学部作業製品のポチ袋に水引を付けたアイデアがよい。利益を出してはいけない製品だが、実際は両製品とも更に高い価格設定にしても十分に耐え得る商品価値がある。
- 意見3：高等部作業製品の価格は妥当である。

6 会議のまとめ

中学部・高等部の作業製品価格について全委員から承認が得られた。前期の学校運営状況や学校評価アンケート結果を踏まえ、各委員から出された幅広い意見を後期の学校教育活動に繋げていくことを確認し、会議を終えた。